

ふるさとの
文化財探訪

変わりゆく木・土・石の文化

文化財調査員 衛藤 鉄太

私たちの生活は、周囲の自然から資源を取り出し利用し生活や生業を営んできました。自然の相が異なる地域ごとに、特色ある生活様式、生活文化が生まれ育まれてきました。

しかし近代、工業化と社会的分業がすすんだ現代では、衣食住の物資の多くが工場や人為的環境下で作られ、商品として広域流通するようになりました。その為、木や土、石や竹などの自然素材を利用した文化が衰退してきています。人為的環境下で作られた商品は、化石資源からなり二酸化炭素を発生させ、二酸化炭素が発生すれば地球温暖化になり環境が悪化します。化石資源もいずれ枯渇するか、高価になりいづれ使えなくなり、経済の成長を続けることができなくなるでしょう。

しかし自然素材は無尽蔵で、木は日本の国土の3分の2を占め自然林や人口林などの森林で覆われています。潤沢にある資源として、木から生活の必需品を得てきました。木の実を採取して食糧に、伐採して燃料とし、削って器や道具に、又建築の材料にも木を使ってきました。又伐採しても植林し木を増やすこともできます。

土は大地を形成し、全ての文化の中心



木・土・石・竹など自然素材での物造りこそ持続可能な街づくりが出来るのではないのでしょうか。

です。土といってもいろんな使われ方があり、植物を育て食器や壺などの陶器の土として使われたり、古民家建築では土壁として使われ、土間には土と石灰と苦汁を混ぜた三和土などの建築資材として、また多目的に使われるレンガなど様々な分野で使われています。

石は石造文化として古代建造物、城壁、用水路などに使われてきました。自然素材は職人の手によって様々な生活様式を支え、歴史と文化を支えてきました。生活様式が変わり木・土・石・竹など自然素材を扱う職人が減少し、特色ある生活文化がなくなりつつある現代で、次世代の人材育成は自然素材で物造りをする職人を育成することが循環型持続可能な社会につながるのではないかと思います。

がありました。（一部抜粋）

幸せになろうね

人権

心の扉

No.301

2021年度

第1回なるほど“ザ”人権講座

(今年は九重町教育委員会による主催)

昨年度の講座中止を経て2年ぶりに、なるほど“ザ”人権講座が始まりました。今年は人権部落差別問題を学ぶ上で『歩みを止めない』という思いに立ち返り、試行錯誤を重ねて感染症対策を施した上で講座開催に踏み切りました。受講生は今年もこども園・小・中のPTAの保護者28名で、全4回の講座を通して学習を深めていきます。そして今年度も、講座内容や受講生の声などをこの「心の扉」のコーナーで紹介させていただきます。

第1回の講座では「人権と向き合う～今、人権を学ぶことが、なぜ必要なのか～」と題して、隣保館の後藤大リーダーを講師に招きました。講座終了後に、本日感じたことについてアンケートを書いていただき、以下のような記述

- ・今まで人権に対してあまり気にかけていなかったけど、あらためて今日話を聞いて人に対する接し方や、相手に対する考え方をかえていかないといけないと思ったし、人を変えることはできないけど、自分自身が変わっていけば相手も変わってくれるといいなと思いました。
- ・いじめや差別を止めることは難しい→言動や行動に同意しない
- ・「人を変える事はできない。自分を変える事はできる」ドキッとしました。
- ・子どもに対しての言葉使いをもう一度見直そうと思いました。ありがとうございました。
- ・人権は小さな子どもから、お年寄りまで大切にしていかなければいけないと感じました！
- ・差別はなくならない。。。悲しい現実ですが、少しでも減っていく！！次につなげていく事が、会の意味だと思って、1人でも多くの方に、参加してほしいですね！！

紙面の都合上、詳細について掲載することができませんが、ご質問等がございましたら、社会教育課（☎76-3823）までお問い合わせ下さい。

また、第2回以降の講座については、新型コロナウイルス感染状況が落ち着いた段階で実施の予定です。

社会教育課